

乗雲

寺報

第106号

1985年4月創刊

R1.8.1 発行

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

編集人
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

道元禪師御一代記押絵

6

宇治の興聖寺に僧堂を開く



道元さまは天童山の如浄禪師のもとでの修行を終え帰国されると、嘉禎二年(西暦1236年)十月十五日宇治の興聖寺に僧堂を開き、ここで八年にわたり禪の布教に専念されることになる。全国あちこちから学者や僧侶が集い、その教えを受けた人々は二十人をはるかに超えるほどであった。

道元禪師御一代記



自ら仏に帰依したてまつる
まさに願わくは衆生とともに大道を体解して無上意をおこさん
自ら法に帰依したてまつる
まさに願わくは衆生とともに深く経蔵に入りて智慧海の如くならん
自ら僧に帰依したてまつる
まさに願わくは衆生とともに大衆を統理して一切無碍ならん

自ら仏に帰依いたします。願わくはあらゆる命あるものとともに、仏道を体得し、大いなる覺りを得て世の光となろう。

自ら法(仏の教え)に帰依いたします。願わくはあらゆる命あるものとともに、深く仏教を学んで海の如き智慧を得よう。

自ら僧(教えに従う人々)に帰依いたします。願わくはあらゆる命あるものとともに、多くの人々を教化し導びたいこう。

これは梅花流詠歌経典の勤行式にもある、「三帰礼文」です。お

釈迦様は、この「仏・法・僧」の三宝をよりどころとして生きよとお説きになられました。第一に仏さまを拜むことです。仏さまはいつも見守っていてくださいます。第二は法です。法(仏さまの教え)に従って毎日の生活を充実させていくことを心がける。第三の僧は、今日僧侶をさして用いられますがこの場合は教えを共に学ぶ仲間を言います。仏さまに手を合わせ、その教えに学び、皆が共に助け合い、支え合いながらこの世を生きていくことです。

三帰礼文の最初に「無上意」があります。「無上の心」「菩提心」とも言われるもので、これ以上ない行い」という意味です。私たちは他人と接するときどう言う気持ちで気配りや気遣いをしていくでしょうか。これ以上ない笑顔、思いやり、優しさを接しているでしょうか。只ひたすら人の喜びのためにする行為が「無上意」です。

何事も生涯に一度限りです。毎日の生活の中で出会う人々に、さりげない無上意を伝えていきましよう。

令和元年 年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

▼令和元年(2019)の年回表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正當各家には昨年暮れに通知してありますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちようど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌、九十二年目が十三回忌となる。